

夜

たくさんの星が窓からキラキラのぞき込んでみた  
僕のからだにからみながら あの時 お前は言った  
……いつまでも ね いつまでも  
その調子を思ふと いまも僕の耳元にあたたかい息吹きを感じる  
胸のあたりの夢のやうな  
どきどきする音  
うつとりしてゐる目

……いつまでも ね  
……ああ 僕だつて

つと過ぎた一瞬まではつきりと心に浮べ  
遠く離れた地点の一つの室で  
深夜にこんなにまでお前が胸をかきむしらうとは